

2020年(令和2年)10月7日(水)第9回例会(通算2883回)

国際ロータリー第2580地区



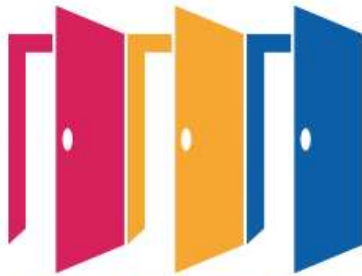
石垣ロータリークラブ週報

会長：森田 安高 副会長：黒島 剛 幹事：東上里 広和 副幹事：吉田 貴紀

今月のロータリーレート 1\$¥105

創立年月日：1962年3月12日

今年度創立60周年



ロータリーは機会の扉を開く

2020-21年度RIテーマ

RI会長：ホルガー・クナーク

地区ガバナー：野生司 義光氏

2020-21年度 ◆クラブテーマ◆ **【心機一転】**
クラブキャッチコピー：島のリズムで伝える平和と奉仕のくるくる(心)

☆地区年次目標☆

「会員増強」

「公共イメージの向上」

「ロータリーデーの開催」



四つのテスト

言行はこれに照らしてから

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなの為になるかどうか



シリーズ：森の名人・戸眞伊さんと森の木

石垣方言：クバデーサ 和名：モモタマナ

建材としては向いていない木でしたが、枝ぶりが良く、日影が出来ることから今でも公園や広場など憩いの場に植えられることの多い木です。

戸眞伊さんの故郷、船浮には竹富町の天然記念物にもしていされている立派なクバデーサーがあり、この木は八重山の民謡「石の屏風節」や「殿様節」にも登場するほど有名で、「船浮のクバデーサー、枝持ちがとても美しい」と石の屏風節の歌詞の中でも讃えられています。



9月30日(水)例会報告

《司会進行：大田 次男》

メークアップ：我那覇 宗善 遠藤 正夫 大城 文博

大濱 達也 宮良 榮子

会員総数	47名
出席義務会員	46名
出席数	25名
欠席数	21名
出席率	54.34%
通算出席率(9月)	63.04%

★10/7(水)米山委員会卓話

10/14(水)ゲスト卓話：江田一也様(八重山警察署長)

例会日 水曜日 12:30～13:30

例会場 アートホテル石垣島(0980)83-3311

事務局 〒907-0013 石垣市浜崎町1-1-4

TEL/FAX(0980)83-2917

URL <http://ishigaki-rotary.jimdo.com>

E-mail ishiroatary@ninus.ocn.ne.jp

◆ 会長挨拶：森田安高 ◆



皆さん、こんばんは。今回は初の夜間例会として、始まる前にこんなに和やかな雰囲気は初めてです。日中もそういう笑いをもって例会に参加してほしいなと思いました。今日のニュースで管総理が就任の挨拶がありました。総理大臣が代わると一国民として、凄く新鮮味を感じました。皆さんもそうだと思いますが、期待感を漂わすところがあったなと思いました。これから来年のオリンピックがどうなるかという心配もありますけど、現体制のまま引き継いだ管さんに期待しているところです。発表の中で、デジタル庁を作って女性をトップに据えるような発表がありました。そういう意味でも期待していて、携帯電話の値下げ合戦が始まるというのがあります。是非とも携帯電話の値下げが出来ることに期待して、これから夜間例会を始めたいと思います。今日は、会員卓話松田さんの行って頂くということと、懇親会に入りまして、知念さんのギターと会員のスーパースター米盛さんのケーナを聞きながら皆さんで楽しんでいきたいと思っています。最後までよろしく願いいたします。

◆ 会員卓話：松田新一郎氏 ◆
(沖縄シップスエージェンシー)

◆ テーマ ◆ 外航船舶代理店について



昨年2月に入会させていただきました、米山委員会の松田新一郎です。本年度は米山地区委員も務めさせていただいておりますが、まだまだ分からない点が多数でして前任者の大浜勇人さんにご指導を受けながら頑張っていきたいと思っています。私の会社、沖縄シップスエージェンシーの業務内容であります外航船舶代理店についてお話ししたいと思います。このような説明があまり慣れていないもので、お聞き苦しい部分もあると思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。我が社は平成6年に、私の叔父である現会長の松田が設立しまして、昨年2019年に創業25周年を迎えました。私は、船長を目指して沖縄海員学校の寮生活を送りながら3年間過ごしていました。私が卒業する年の船員の求人がまったくなくて、学校の紹介で東京の東京ガスの下請け会社に就職しましたが、成人式を終ったあとに会社を辞めて、その年の夏に料理人になりたくて一度沖縄に帰

てから考えようと思い、沖縄に帰って来たんですが、ぶらぶらしていたところに、暇しているならバイトしろということで、平成8年に今の会社に入社しまして、今年で24年目となります。そのうち、石垣支店勤務は20年目を迎えました。私の出身が沖縄本島の今帰仁村なんですが、故郷の今帰仁よりも石垣に住んでいる期間が長く、このまま石垣で仕事が出来たらいいなと思っております。それでは簡単ですが、「外航船舶代理店とは」をスライドを利用してご説明したいと思います。よく言われることなんですが、松田さんの仕事は旅行代理店なの？とか、船に乗っているの？とか何の仕事なのとよく言われますが、外国船舶代理店というのは、外国船会社の代理人として日本に寄港した際に必要なすべてのサービスを提供します。内容としては、本船入出港業務：港湾管理者、港湾官庁(CIQ)、本船、ターミナル、荷主との連絡、書類業務：船荷証券、運賃請求書、貨物関連書類の作成・発行、セールス(集荷)業務：貨物の集荷営業とカスタマーサービス、経理業務(アカウント)業務：運賃等の回収、港費精算があります。メール、電話のやりとりはほぼ英語でのやり取りです。船の入出港時間は決まっており、すべての手配にスピードと正確性が求められます。複数のシナリオを用意して不測の事態にも対応できる体制づくりや国際ビジネスマナーとコミュニケーション能力はもちろん、なによりもタフさが必要となります。

船舶代理店業務3つのフェーズ。入港前の手続き、在港中の対応、出港時の手続き、船舶代理店業務は手配業務が7割、現場立ち会い、他3割です。ルーティン業務は、本船の入港必要書類を船会社に依頼する。各港湾省庁向けに入港事前書類を作成、提出。入港当日、岸壁にて接岸、立ち会い。船会社、本船からの依頼を全般的に対応。出港立ち会いとなります。船舶代理店は通称“海の行政書士”“港の司令塔”でネガティブに言えば何でも屋さんみたいな幹事です。24時間365日のハンドリング体制が求められる。顧客である船社の利益を確保すると共に、船舶法、港則法、関税法、検疫法、出入国管理及び難民認、定法等、関係法令の熟知と遵守が求められます。外航船舶の入出港に必要な諸手続きや交渉の代行を行います。国土交通省で言えば、入港の前に海上保安部に対して、どういった船が入るのかを確認して、書類を提出いたします。検疫所では、疫病対策、事前に患者がいらないかということを事前にチェックします。出入国在留管理局「船員/乗客の入国審査」、危険な人物がいらないかを必ず入港前に事前に名簿を提出します。税関は荷物の検査、動物検疫所は動物の病気の侵入を防ぐ。植物防疫所は、植物の有害な病害物の侵入、まん延防止を行います。船舶の入出港に必要な手配には、岸壁予約・貨物船は大体一か月前あたりに寄港の連絡が

ありますが、クルーズ船については数年前から寄港準備をしていて予約依頼があります。大型船の入港調整は、必要な安全対策等の調整、特にクルーズ船の那覇寄港に関しては定期船との兼ね合いもありますので事前調整が必要となります。水先案内人、曳船、綱取離し作業員も入港前に手配いたします。給水、食料調達、食料については海外のほうが格安ですので、ほとんど飲料以外はなかなかありませんが、クルーズ船については現地で調達するものも多数あります。船員医療対応(救急含む)については、船員も船内で仕事をしていることもあって寄港地にて一時的に上陸して歯医者等の医療を受けます。クルーズ船については船員また乗客の医療対応も数多くあります。船内での事故等やフリーで観光している乗客等の面倒も見たりします。船員交代乗下船手続き・宿泊・食事・送迎・貨物船については、比較的少ない人数ですが、クルーズ船については数百名乗船しているので、多い時で150名一度に乗下船対応の経験もあります。離島についてはシーズン時、ホテルがとりにくいこともあり事前に周知してなるべく他の港での交代を依頼することもあります。修理業者、潜水士については、現地業者で対応できる場合や、専門な職人がきてそのアシスタントを手配するケースもあります。潜水士については特に中国から入港してきたときに航行には問題ないのですが、漁網等が引っかかっていたりするのでその写真を撮って、必要があれば港湾管理者や海保へ申請をして許可をもらい業者を手配します。クルーズ船についてはピアノの調律や、清掃の依頼も過去にありました。船用品の通関配送については、寄港時に積み込むことが多いのですが、船用品は外国から到着した場合には通関が必要になります。その際に通関業者を指名したり、重量物についてはトラックや重機の手配もします。また逆に船から揚げ降ろして外国に発送することもあります。船舶代理店業務写真なんですけど、取り扱ってきたちょっと特殊な取り扱いを紹介させていただきます。米軍掃海艇、過去に与那国、石垣、宮古と寄港しました。その際には様々な手配をさせていただきました。座礁船、この写真は尖閣魚釣島となります。そこに大畑の貨物船が乗り上げてしまって、特殊な地域ですので、なかなか代理店が行けないところなんですけど、現場に行かないけれども、私どもの方で、取りあえず出来る手配がいろいろあります。裁判の手配や船員の取り調べも行ったりします。私はこれまで4回ほど座礁事故対応の経験があります。なるべくなら安全に運航していただきたいところです。クリアランス業務ですが、何か紐にぶら下がっている私ですが、これは乗船して手続きを行うところです。過去にはこのような業務が月に40~50隻程度石垣にて対応していましたが、今は年間数えるぐらいとなっています。クルーズ船、これは

石垣港の新クルーズ岸壁に接岸中のダイヤモンドプリンセス号です。コロナの関係もあり、港湾工事が何事もなく進んでいるということで、今は岸壁がさらに拡張されて、ダイヤモンドプリンセス号の倍の大型クルーズ船が接岸できるような環境になっています。さまざまな船、ここではいろいろな船のタイプがあります。コンテナ船やばら積み船、木材専用船とさまざまな船が世界各国に入港しています。LNG 船、LPC 船、重量物船、自動車専用船、RORO 船、冷凍運搬船、石炭船、外航客船、石炭専用船、サイズは違いますが那覇にはほとんどの船が入港しています。沖縄(那覇)の地理的優位性: 沖縄を中心にした地図ですが、那覇から1,500km 圏内にあるソウル、上海、マニラなどのアジアの主要都市には飛行機で4時間以内に行くことができます。これは沖縄の魅力や、東アジアの中心に位置する地理的優位性により LCC や外国航空会社の大幅に増加したこと、特にクルーズに関してはここ数年、中国南部、アモイ、香港、などショートクルーズが主流になっていて 26%ほど増えています。今後、沖縄また石垣の地理的優位性は揺るがないと思います。日本は資源を輸入に頼っているということで物資の対外依存度や輸入先の図となります。一度に大量輸送が必要となり、国家経済に船と港が必須となっております。日本の貿易に占める海上貨物(ト)数は約 99.6%ということで、圧倒的に海上貨物のほうが日本の貿易を占めていて、開運はわが国の貿易に不可欠な輸送手段、海に囲まれた島国“日本”は海運なしに成り立たない。船で運ぶモノ 99.6%で重い、大きい、体積がある、原油や穀物、自動車。また航空機で運ぶモノ 0.4%で軽く小さい、緊急性がある、高価な商品、集積回路、工業機械、競走馬となっております。ここまでの外航船舶代理店の必要性や役割の話でした。外国船社が運航するクルーズ客船の寄港回数では、昨年に那覇、石垣、平良で 543 回寄港していて過去最大の数字となります。これまでは九州が1位2位と寄港数が多かったのですが、沖縄が日本一に返り咲いた形になりました。この寄港数を見てもわかる通り、沖縄県のクルーズ寄港における地理的優位性はこれからも続くことと思います。ではクルーズの再開はいつになるのかというと、国土交通省がこれまでの感染対策や港の受入れ対応を検証してとりまとめた記事が海事新聞に載っています。あくまでも国内ですが、クルーズの再開に当たっては、第三者認証取得などの準備の整ったクルーズ船と受入れ港から実施する。郵船クルーズさんが所有している飛鳥II、これは石垣のほうにも毎年寄港している船ですが、これを一つのトライアルとして実施します。そのトライアルをした結果をもって新たなガイドラインを改定し、

それから本格的に国内クルーズを実施するという事です。国際クルーズに関しましては、まだまだ時間のかかる話です。全世界のクルーズ会社で、すでにクルーズを再開しているクルーズ会社も多数ありまして、同じように会社の所在している国の国内クルーズからスタートしています。国のガイドラインを重視して船会社のガイドラインを重視しながら運航するということで、少しずつ世界的にクルーズの動きはスタートしています。日本国内ですと、10/1 から一部緩和をして、全世界を対象に受入れすることなんです、ビジネスマンや海外の留学生、米山の留学生ももちろん戻って来ることになると思います。空港のほうも少しずつコロナに対して受入れをスタートしているところです。船のほうはまだまだ時間のかかる話かなと、会社的には年内はもち

ろん無理でして、来年のオリンピック前か後になるのかなと思ったりもしますが、日本では特定検疫港というのがあります。空港だと全国で9空港ありまして、港は7港あります。沖縄県では、那覇空港と那覇クルーズターミナルが特定検疫港として指定されていますので、まずはそこから受入れを再開するのかなと思います。日本では博多はもちろん、大阪、東京、横浜が指定されていますので、そこから徐々に再開していくのかなと思います。いずれにしても離島にすぐ入ってくるかというとなかなか厳しいものがあります。やはり受け入れ態勢や患者の搬送とか、そういったものがまだまだ協議が必要だと思います。本日はつたない卓話にお付き合いいただきありがとうございました。

～例会・観月会風景～



知念様のギターと米盛氏のケーナで「涙そうそう」を♪とても素敵なコラボでした。



今年度、初の夜間例会！心地よい音楽に癒やされ、語り合い、楽しく親睦を深めることができました。

60周年記念基金



森田 安高氏 米盛 博和氏 南波 正幸氏 前木 繁孝氏 新 賢次氏 黒島 剛氏 大田 次男氏
池城 貞光氏 大浜 勇人氏 宮良 薫氏 宮城 早人氏 東上里 和広氏 今西 敦之氏
吉田 貴紀氏 松田 新一郎氏 山下 暢氏 新垣 精二氏 玉城 力氏 西表 浩司氏

◆60周年記念基金 ¥23,000 累計¥38,000

◆BOX¥10,000 (累計¥51,000) ◆コイン¥0 (累計¥11,648) 合計 ¥64,648



大濱 達也氏 6日(火) 松田 新一郎氏 6日(火) 宮良 薫氏 12日(月)
西表 浩司氏 14日(水) 上原 晃子氏 23日(金) 今西 敦之氏 28日(水)

